

■北海学園大が4連勝で単独首位。第6節

第48回北海道学生選手権は第6節の10月2日、札幌市円山競技場で、全日本大学選手権（甲子園ボウル）の道代表争いも兼ねる1部の1試合を行った。北海学園大（前年優勝）が釧路公立大（同5位）に74-6で大勝。北海学園大は4連勝で、優勝争いの単独首位に立った。釧路公立大は1勝2敗。第1試合に予定していた帯広畜産大（同4位）-東京農業大（同2部優勝）戦は、東京農業大の棄権で帯広畜産大の不戦勝（1勝2敗）となった。東京農業大は不戦敗（3敗）。

北海学園大は第1Q5分にRB丸川祐生（4年、北海高）の20ヤードTDランで先制すると、7分にQB河合祐輔（4年、札幌第一高）からWR寺川隆吾（4年、北海高）への32ヤードTDパス、9分にはRB丸川が8ヤードを走り込んで加点した。第2QもRB丸川の勢いは止まらず、3分に20ヤードのTDパスをキャッチすると、10分には25ヤードランでエンドゾーンに駆け込んだ。



第3Qは3分に控えQBの篠原浩大（3年、札幌北陵高）が4ヤードキープで加点すると、5分にはDE藤田丈慈（4年、札幌手稲高）がファンブルリターンTD、9分にはRB丸川の5本目のTDとなる19ヤードラン、QB河合からWR寺川へ50ヤードのTDパスと立て続けに加点すると、10分にはDL/LB濱谷昂生（3年、札幌白石高）のファンブルリターンTDも飛び出した。第4Q8分には、RB渡辺爽太（1年、札幌厚別高）が2試合連続となるTDランを決めた。

釧路公立大は、試合開始のプレーでいきなりオンサイドキックを成功させ、QB山口響生（2年、札幌清田高）からWR高坂峻祐（2年、滝川西高）へのパスで一度は第1ダウンを更新したが、結局パントに。その後もWR山本来紀（1年、青森西高）へのパスやRB内海太陽（3年、江差高）やRB牧野幹大（3年、札幌藻岩高）のランなどでゲインを見せたが、ファンブルやインターセプトなどで攻撃が不発。第4Q5分、自陣25ヤードからのドライブを丁寧につなげ、最後はQB山口からWR高坂への20ヤードTDパスを決めて、一矢を報いた。



北海学園大の高木幸樹ヘッドコーチは「しっかりと集中して試合に入れ、取るべき時に点も取れた」と評価したうえで「最終戦の北大戦は接戦になる。総力戦でやるしかない」と力を込めた。5 TDのRB丸川も「今日はランの日で、1年生もTDが取れた。でも課題もある。北大戦までの2週間、しっかりと詰めたい」、LB松本竜輔主将（4年、旭川龍谷高）も「北大戦では自分たちの時間をどれだけ持てるかが勝負。後半スタミナ切れになる守備も強化する」と決意した。

一方、釧路公立大の高木瞭ヘッドコーチは「北海学園大や北海道大と互角に戦うのが目標。選手たちは目指すレベルを体感できたはず」と収穫を強調。QB山口も「TDパスは無我夢中で投げた。もっと点を取れた試合だった。インターセプトの失点を反省したい」と残り2試合での巻き返しを誓った。